

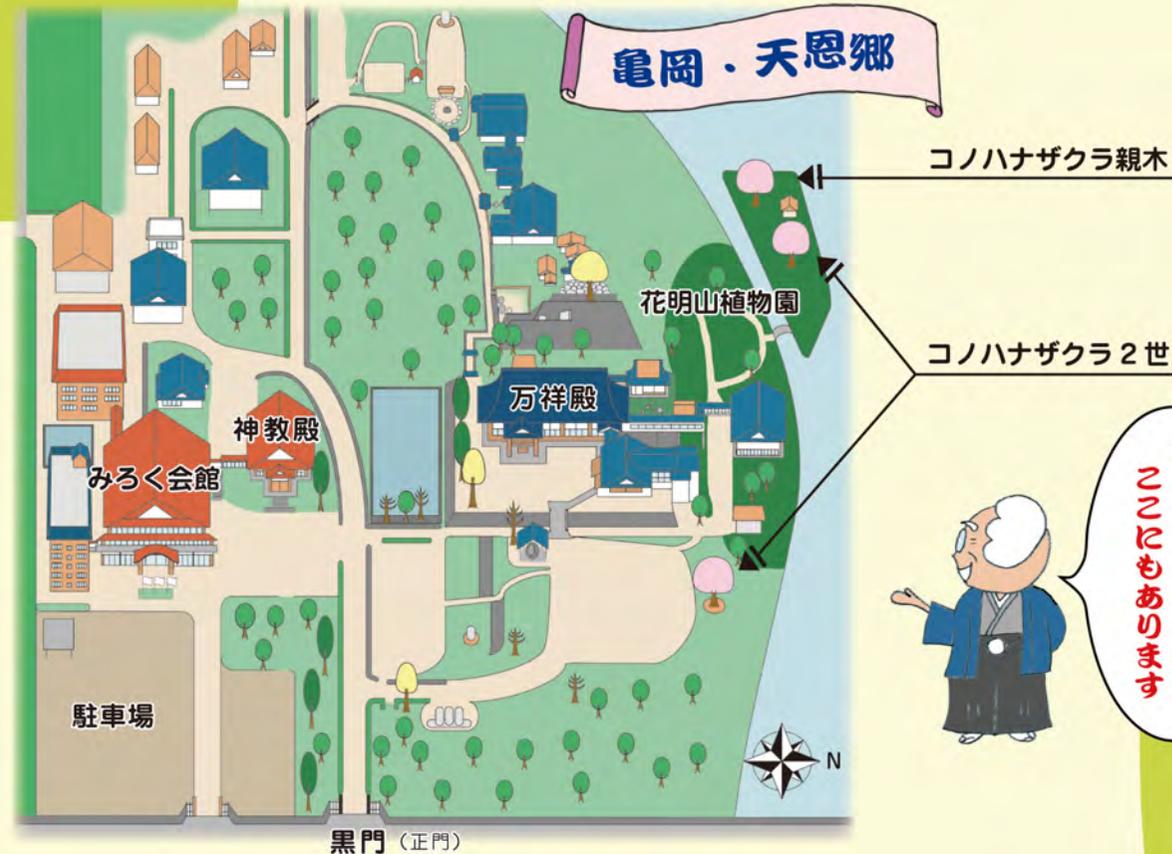
コノハナザクラ



日本の春を美しく彩るサクラは、古くから日本人に親しまれ、愛されてきました。ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラなど、サクラの種類はたくさんあります。
今回は、美しい八重咲きのヤマザクラの一種「コノハナザクラ」を紹介します。



みろく博士



亀岡・天恩郷

コノハナザクラ親木

コノハナザクラ2世

コノハナザクラはここにもあります

春を愛でる観桜茶会

亀岡市天恩郷では、4月の第2日曜日に、コノハナザクラを愛でる「観桜茶会」を催しています。
野点茶席が設けられるほか、苑内施設では能楽の囃子や仕舞、琴や三味線などが演奏されます。春を愛でる恒例行事として、亀岡市民をはじめ、大勢の人々にぎわいます。



観桜茶会での野点茶席（亀岡市天恩郷）

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町 1-1 梅松苑
TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>

<連絡先>

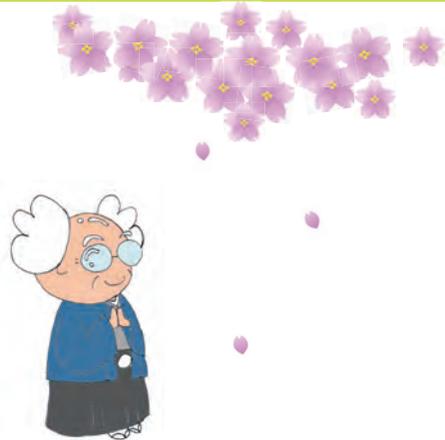




和名：コノハナザクラ
学名：Prunus Jamasakura Siebold var. Nahohiana Koidzumi et K.Takeuchi ex K.Takeuchi

サクラ、サク

春といえばサクラ。日本を代表する花として、多くの人に愛され、親しまれています。サクラは昔から和歌にも多く詠まれており、「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」（紀友則）の「花」はサクラのことを指しています。



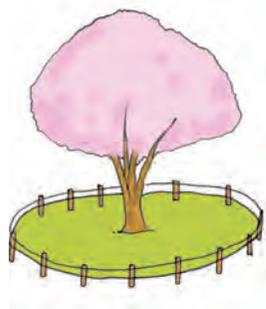
現在ではサクラといえばソメイヨシノが一般的ですが、古典文学に登場するサクラのほとんどはヤマザクラです。

コノハナザクラ

コノハナザクラは、世界に数本しかない、とても貴重な八重咲きのヤマザクラです。野生の木は京都府亀岡市と三重県いなべ市員弁町、員弁郡東員町でしか確認されています。その特徴は、

- 花びら：40〜60枚
- 花の色：淡紅色（先は少し色が濃い）
- 咲き方：下向き
- メシベ：2本以上（1本の花もある）

花の時期は4月中旬ごろ。花の盛りが長く、優美な姿で見る人を楽しませてくれます。



新種発見!!

コノハナザクラは、昭和28年4月14日、京都府亀岡市天恩郷内の「大本花明山植物園」で発見されました。

発見者は出口直日なおひ大本三代教主です。

三代教主は植物園を散策中、とあるサクラに目がとまり、当時の大本花明山植物園長だった竹内敬氏に、調査を託しました。竹内氏は、植物学の権威である



コノハナザクラの親木（亀岡市天然記念物）
（亀岡市天恩郷・大本花明山植物園）

小泉源一氏に鑑定を依頼。サクラ属の新種であることが確認されました。そして、小泉氏によって、和名を「コノハナザクラ」と命名されました。くしくも、サクラの発見者である三代教主が希望していたものと同じ名前でした。

コノハナザクラの学名には、三代教主の名前「nahohi」が入っています。



先祖返りするサクラ

コノハナザクラの種から育てた苗木は、そのほとんどが先祖返りして一重のヤマザクラにもどってしまいます。実生のコノハナザクラは2世が育ちにくいのです。取り木によるコノハナザクラの2世木は、大本花明山植物園で見ることが出来ます。綾部市梅松苑の長生殿前には3世木が育ち、毎年、美しい花を咲かせています。



満開のコノハナザクラ（綾部市梅松苑・長生殿前）

豆知識

サクラの由来

サクラの名の由来は諸説あります。サクラの「サ」は、田神サガミのサで、農耕の神さまを意味し、早苗さなえ（稲の苗）、早乙女（五月女・田植えをする女性）に見るように、穀物に関係しています。「クラ」は御座みくら（神さまがいる場所）のことで、「サナクラ」は、穀物の神さまが集まる場所（木）を表す、という説があります。いにしえの人々は、サクラの木に祈り、その年の豊作を願ったのでしょね。

